

令和 4 年度

地域力応援基金助成事業 活動報告書



地域力推進課

区民協働・生涯学習担当

令和4年度実施 地域力応援基金助成事業 活動報告書 もくじ

地域力応援基金助成事業の概要 4

スタートアップ助成

■新規

団体名	事業名	頁
池上こどものまち実行委員会	池上こどものまち（仮称）プロジェクト	5
おやこ cafe verde	みらいのまなびや verde ship 大森	6
チャレンジドサポート	要配慮者の防災	7
みらいエール	「リアル of 弁護士」ほか様々な職業を肌で感じられるキャリア教育授業	8
どこでもオリヒメ	ICT 活用による社会参加推進事業	9
一般社団法人光 JS みらい	外国にルーツのある子どもたちに日本語学習の機会を	10

■継続

団体名	事業名	頁
Link×Link	世代を超えて皆が集まる場所を作る事業	11
にこにこサロンの会	にこにこサロンの会の集い	12
いきちか学童クラブ運営会	いきちか花壇プロジェクト	13
SDG s 五感で学ぶ会	SDG s 五感で学ぶ～サステナブル(持続可能)&エシカル(倫理的)な商品やサービスの選択を通じた“誰一人取り残さない”社会教育推進～	14
田園調布落語会	落語・講談・紙芝居・読みきかせ・映画観賞会・ワークショップなどの開催	15

ステップアップ助成

■新規

団体名	事業名	頁
特定非営利活動法人ソシオキュアアンドケアサポート	ホットサロン開催とハンドマッサージ講習	16
多摩川とびはぜ倶楽部	大師橋干潟・河川敷の環境再生プロジェクト	17
一般社団法人 EXPRESSION	大田区田園調布発信！朗読劇「絵本リトル・ツリー」 (作 葉祥明)	18
防災助っ人集団 やっこさんの会	「大田区で防災について考えるつどい」	19

■継続

団体名	事業名	頁
大田健康福寿会	「更に体力向上！！」ポールウォーク・グランドゴルフ・輪踊り	20
一般社団法人ヒューネットアカデミー	国勢調査 2020 から SDG s ～リサイクルを通じた地域貢献～	21
おとな&こども・ほっとネット	子どもの自立を育てる保護者の子育て力のアップと交流&親睦活動の促進	22
一般社団法人精神障害当事者会ポルケ	メンタルヘルス・精神障害理解啓発プロジェクト	23
特定非営利活動法人文化活動支援機構フォレスト	おおた俳句大会	24
きつねの学校	コロナ禍でも持続可能な、組織のクリエイティブ活動。(ウォールアート)	25

チャレンジ助成

■新規

団体名	事業名	頁
ふれあいこどもクラブ	大森西地区の多様性ある居場所-「きょうもおいで」プロジェクト	26
NPO 法人スマイルかまた	パラスポーツをみんなで楽しもう	27

■継続

団体名	事業名	頁
大森本場乾海苔問屋協同組合	「郷土の歴史を繋ぐ 海苔を味わう海苔の日」	28

チャレンジプラス助成

■新規

テーマ(1)『ICTリテラシー向上のための地域支援事業』

団体名	事業名	頁
NPO 法人大森コラボレーション	地域と区民活動をつなぐ ICT スキルアッププロジェクト	29

テーマ(2)『子ども・若者のための居場所支援事業』

団体名	事業名	頁
NPO 法人 YUME プラス	ジェネラルサポート・おおた	30

■継続

テーマ『はねびよん健康ポイントの普及啓発事業』

団体名	事業名	頁
大田区商店街連合会	Street Camping 事業	31

地域力応援基金へのご寄付のお願い 32

★本書は、令和4年度地域力応援基金助成事業に採択された団体から提出された活動報告書です。

■地域力応援基金助成事業の概要

地域力応援基金助成事業は、平成 21 年度の制度創設以来、区民活動を支援するとともに、協働を推進する施策として実施してきました。これまでの事業の実績や地域活動の現状を踏まえ、平成 31 年（令和元年）度から以下の現行制度となりました。

各助成事業の概要

	スタートアップ助成	ステップアップ助成	チャレンジ助成・チャレンジプラス助成
主旨	団体の基盤となる事業の応援	基盤となる事業を拡大・拡充させる事業やスタートアップ助成事業の規模拡大の応援	新たな地域課題や新規事業にチャレンジし、地域の連携・協働の深まりが期待できる事業を応援 このうち、区が示すテーマに即した事業であれば、申請額の上限を 50 万円増額とする(チャレンジプラス助成)。
要件	設立から6年未満	設立から2年以上	設立から5年以上、かつ過去に地域力応援基金助成事業で採択された団体は、実施終了から2年以上経過していること
総額	総額 200 万円 (継続 150 万円)	総額 280 万円 (継続 210 万円)	総額 1,000 万円 (継続 750 万円)
助成額	1事業につき 20 万円まで (継続は 15 万円まで)	1事業につき 40 万円まで (継続は 30 万円まで)	1事業につき 200 万円まで(継続は 150 万円まで) ただし、チャレンジプラス助成として申請した場合は、250 万円まで(継続は 187 万円まで)

こどもの、こどもによる、こどものためのまちづくり!

事業名 池上こどものまち（仮称）プロジェクト

助成額 20万円

◆地域での課題

近年、こどもをとりまく環境には多くの課題がある。特に地域においては、こどもが自由に主体的に活動できるような場づくりや、幅広い世代の交流機会の創出など、こどもの健全な育成のためのよりよい環境づくりが求められる。安全安心の確保には十分に留意しつつ、こどもがのびやかに遊べる場を増やしていきたい。

◆基金事業概要と達成した成果

本事業は、ドイツの「ミニ・ミュンヘン」を参考に、こどもたちが一から「まちづくり」をする、という壮大な遊びのイベントを年に1回開催するものである。参加対象は小中学生で、活動の中身については、あくまでもこどもたち主体で進め、実行委員会（高校生以上）はプログラムの実現に向けた後方支援を担う。今年度は、「コアメンバー会議」（月1回程度）、他都市の「こどものまち」の視察（8月）、トライアル開催（11月）、専門家によるレクチャー&ワークショップ（12月）などの活動を経て、3月に2日間、のべ204名の参加者を迎えてイベントを開催するに至った。

◆これからの取り組み

来年度は、今年度の2~3倍の参加者数を想定しつつ、「まちづくり」遊びとしての充実度をさらに上げられるよう、準備していきたい。また、実際のまち（商店街など）や、地域の各種団体との連携を模索し、双方にとって有意義な事業に育てていきたい。



コアメンバー会議（7月）



ワークショップ（12月）



トライアル開催（11月）



イベント本番（3月）



イベント本番（3月）

団体名 池上こどものまち実行委員会

会員数 13名

設立 令和4年（2022）

団体の活動8目的
活動実績

ドイツ・ミュンヘン発祥の「こどもの、こどもによる、こどものためのまちづくり」という壮大な遊びのプログラムの運営全般を担い、こどもが主体的に活動できる、安全安心かつ自由な場を創出します。令和5年3月に「第1回こどものまち」を開催。（参加者のべ約200名）

おやこ cafe verde

事業名 みらいのまなびや verde ship 大森

助成額 20万円

◆地域での課題

孤立した環境におかれている様々な世代の人達への居場所作りを地域の他団体や周囲の人達との協力、連携のもとマンパワーを増やしていかなければと考えます。

◆基金事業概要と達成した成果

子供向けや親子向けにヨガ、ヴァイオリン、ルーマニアの先生に学ぶ空手、パソコン教室、絵画、絵で解く算数(ドングリ計算)などの開催をしました。様々な事に興味を示し集中して時間に縛られずのびのびと楽しく学べて、親子で取り組むことにも大事な意義があると感じました。

◆これからの取り組み

周りに言えず困っている方へ手を差しのべられるような相談窓口として専門家(養護教諭、精神保健福祉士)の方と連携していき尚今後も同じく親子向けの講座など開催し居場所づくりをしていくつもりです。

団体名 おやこ cafe verde

会員数 6名 設立 令和2年(2020)

団体の活動目的 活動実績

休む暇もなく家事や育児に負われる生活の中、たまにはゆっくり食事をしたり、育児を中心とした悩みや情報をシェアできる仲間作りや自分の子と月齢が近い子や、また違う月齢の子とも交流できるスペースで、気軽に立ち寄れる場所があったらいいなと思い、同じ志を持つママ仲間と立ち上げました。これからの未来を築いていく子供達の身体を造る大切な育ち盛りの時期に、健康な食事、健全な精神を育むことは不可欠だと思いますが、家庭だけではなかなか難しい時代だと思います。親だけに任せず孤立させないこと、また子供達にとっても、いろんな大人に育てられることや学校以外の場所で様々な子供達と触れ合うことで培われる人間性や適応力も重要だと思っています。学校では教えてもらえないこと、体験できないことを体験できる場としても、地域の方々に活用して頂きたいと考え、カフェ営業だけでなく健康や食についての講習会や音楽のイベント、こども食堂に力を入れて取り組んでいます。

誰も取り残さない防災♥

事業名 要配慮者の防災

助成額 17万1千円

◆地域での課題

大規模災害に備えるための情報リテラシーの向上。

大規模災害時の適切な避難方法の見直し。

発災時の要配慮者への支援体制の構築。

保育士の先生への防災教育

◆基金事業概要と達成した成果

講習会等の開催時に、参加者と個別に防災について質疑応答が活発に出来た。

防災に対して何が不安であるかのニーズがよく分かった。

大田区防災アプリを多くの方に知ってもらい、スマートフォンにインストールしていただいた。



◆これからの取り組み

高齢者が大規模震災の発災時に速やかに適切に避難することの難しさがわかりました。彼等の身の安全と安全な避難を行うために人的支援の構築や物理的支援の方法について研究・検証を行う必要を感じました。

これについては障がい者の防災や避難に展開できると考えています。

団体名 チャレンジドサポート

会員数 2名

設立 令和4年(2022)

団体の活動目的
活動実績

要配慮者の防災のニーズを汲み取り、水平展開し、個別に伴走支援することを目的にしている

子どもが自ら創る未来を支援します！

事業名	「リアルな弁護士」ほか様々な職業を肌で感じられる キャリア教育事業	助成額	20万円
------------	--------------------------------------	------------	------

◆地域での課題

授業での調べ学習などで、書籍やICTを活かした自発的な調査を通じて、生徒・児童が様々な職業の存在を知り、その内容の理解を深めている一方で、調べた職業や未知の職業について、その職業に従事すると直接話す機会、職業をリアルに感じられる機会を十分に設けられていない点が課題だと感じます。



◆基金事業概要と達成した成果

キャリア教育の一環として、大田区立小学校13校、大田区立中学校2校において、延べ1460名の児童・生徒を対象に、様々な職業の講師（ゲストティーチャー）にお話しして頂きました。

仕事の内容、その職業に就いた理由、やりがいや大切にしていること、児童又は生徒へのメッセージ等を直接生の声でお伝えし、また質疑応答での双方向のコミュニケーションを行うことで、様々な仕事を肌で感じてもらえたと思います。またゲストティーチャーへの感想文という形で、授業の振り返りと言語化を行い、考えや理解の深化の一助にして頂けたと思います。



◆これからの取り組み

さらに多くの学校でキャリア教育授業を実施して、より多くの児童・生徒に対し、いろいろな職業があり、様々な思いをもって仕事に取り組んでいることを、実感してもらえるように活動したいと思います。

そのために、学校側への広報活動により一層力を入れるとともに、他の団体との連携や人的な繋がりを活かして、賛同者を募り、講師（ゲストティーチャー）の拡充に努めます。また、新たな形態での授業の提供を模索・検討したいと思います。



団体名	みらいエール		
会員数	9名	設立	令和3年（2021）
団体の活動目的 活動実績	子どもたちの生きる力を醸成し、子どもたちを支える家庭・保護者をも支えることにより、子どもたちが自信をもって挑み続けられる社会を創ることを目的としています。 （活動実績：令和4年度 大田区立小学校13校 大田区立中学校2校 対象児童・生徒合計1460名 令和3年度 大田区立小学校9校 大田区立中学校1校 対象児童・生徒合計938名）		

必要とされる “いばしょ” があるということ

事業名 ICT 活用による社会参加推進事業

助成額 19万円

◆地域での課題

障がいや病気、家族の介護や育児などさまざまな理由で外出が困難な方が参加できる地域イベントや活動は少なく、地域の人との交流や社会との繋がりを持つにしている人が沢山います。

OTAふれあいフェスタやグランデュオ蒲田での販売会にも参加しました！
お子さんから大人まで沢山の地域の方々との交流できました！



◆基金事業概要と達成した成果

・ICT 機器（分身ロボット OriHime）を利用して、外出に困難を抱える方たちが遠隔でお菓子を販売する社会参加体験事業を全8回行いました。本助成金を通して、区の福祉施設の方々と繋がることができ、手作りのお菓子の販売を行うことができました。また、区内区外の特別支援学校の生徒さんにも体験いただき、これからの新たな就労の形を体験していただくとともに、地域の多様な人たちとの交流の場を設けることができました。

・ICT 機器（分身ロボット、ZOOM）を介した遠隔朗読と音楽演奏、講演会を合計3回実施、オンラインとオフラインで約100名参加しました。障がいや病気があっても働くということ、社会と繋がることの重要性についてパネルディスカッションを通して参加者の皆さんと共に考える機会となりました。

障がいがあっても働くということ、必要とされる居場所があるということについてパネルディスカッションを行いました。



◆これからの取り組み

外出に困難を抱える人、活動に興味があるが体験を躊躇っている方々へ積極的にアプローチができるように、他団体や企業とより連携協力を深めていきたいと思えます。また、お菓子販売に加え、障がいを持つ方が作ったアート作品などの販売も行い、多様な人の社会参加を後押しできるような仕組みづくりに取り組んでいきます。

筋ジストロフィーの難病患者であり知的障がい自閉症のR画伯が描く絵を大きなスクリーンに映し出し、演奏と一緒に朗読をお楽しみいただきました！



団体名 どこでもオリヒメ

会員数 6名

設立 令和2年（2020）

団体の活動目的
活動実績

「外出困難でも社会とつながりたい」そういった声に寄り添い、多様な人の社会参加を実現することを目標に設立されました。ZOOM や分身ロボット OriHime 等の ICT 機器を活用し、外出に困難を抱えていても地域のイベントに参加し、地域で人と人がつながり合い、学び合い、誰もが自分らしく生きていける社会を目指し朗読演奏会、社会体験事業、講演会などを行っています。

一般社団法人光 JS みらい

事業名 外国にルーツのある子どもたちに日本語学習の機会を

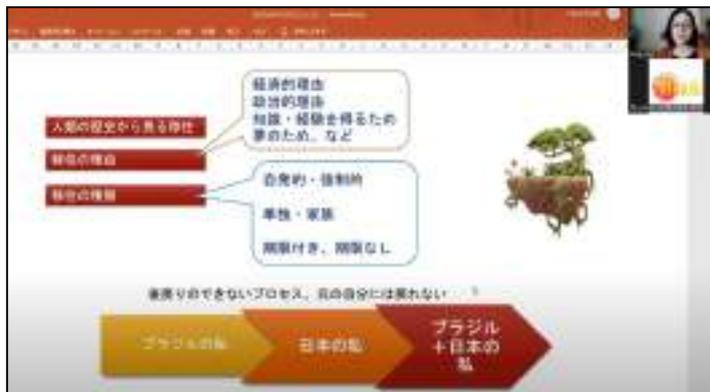
助成額 20万円

◆地域での課題

年々外国人人口が増えている大田区。成人向けの日本語教室は増えているが、子ども向け日本語教室はまだ数少ない。また、学校の補習ではなく、「日本語を勉強する場」が少ない。外国ルーツの子どもたちが「学校の勉強に追いつく」だけでなく、日本語力を伸ばし自身の可能性を広げる場が不足している。

◆基金事業概要と達成した成果

日本語授業（オンライン）を実施。生徒は、①1対1で担任と日本語の勉強をする日と、②自由参加のグループの補習タイムの計2回、毎週参加できるようにした。①では、本人の興味関心にそって話す・聞く・読む・書く4技能を伸ばせるように授業を計画し、実行した。各自のレベルに合った個人授業を毎週積み重ねていくことで、授業開始当初は日本語をほとんど話せなかった生徒も12月の成果発表会で一人で発表できるまでに成長した。②では、学校の宿題などヘルプが必要な課題をそれぞれ持ち寄り、取り組んだ。この時間を通して、生徒は、「分からない」でやり過ごしてしまっていた課題を最後までやり、「できた！」と実感する経験をした。日本語を理由に、「分からない」でやり過ごしてきたものを、最後までやり遂げるようになった。



オンラインセミナー(11/13)

『移住がもたらす外国ルーツの子どもたちの成長』
(講師：岩木エリーザ先生)



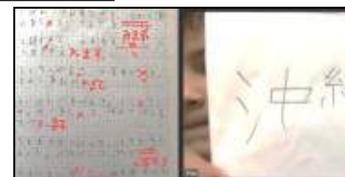
日本語生徒たちによるオンライン成果発表会(12/18)

◆これからの取り組み

今年度はコロナ感染予防対策もあり、オンラインが中心となった。だが、来年度は対面での授業やイベントの実施を増やし、より地域に根差した活動を展開していく。外国ルーツの家庭も、日本人住民も、全員が「地域住民」として共に暮らしていけるように、コミュニティづくりにも力を入れていきたい。



オンライン日本語個別授業
(週1回45分)



団体名 一般社団法人 光 JS みらい

会員数 5名

設立 令和4年(2022)

団体の活動目的
活動実績

●活動目的

国内在住の外国にルーツのある子どもたちが地域に根付いて、生き生きと生活していくため。ひいては、彼らが日本で進学・就労をし、日本の経済を担う高度人材になるため。

●活動実績

- ・オンライン日本語授業
- ・オンラインセミナー開催

子育て世代をサポートし世代の輪を広げて

事業名 世代を超えて皆が集まる事業

助成額 9万円

◆地域での課題

コロナ禍だったため、子育て世代と幅を狭めての開催をしていたが、2年目の活動は宣伝にも力を入れていった。大田区の掲示板や地域の回覧などにも協力いただき、また別の会館を利用したことで色々な方が集まった。



読み聞かせイベント【紙芝居&人形劇】

◆基金事業概要と達成した成果

大田区の助成金を申請しているおかげで、先の見通しやスケジュールが組めた。また、団体としての信頼も出てきて2年目の事業も1年目より人が集まった。

コロナの影響もあり、なかなか宣伝しづらいところでもあり試行錯誤しながらも続けることが出来、年4回のイベントは大盛況に終わった。

これからの取り組み

今年度はコロナも明けてきて世代を広げて実施していきたい。大事なことは地域の皆さんに活動を知ってもらい、この場所を続ける事。開催してる人も集まってくる人も楽しめる場所にしていきたい。



夏まつりイベント

団体名 Link×Link

会員数 15名

設立

令和3年(2021)

団体の活動目的
活動実績

産後ママ、子育て世代を中心に、色々な世代が集まる場を開催。現在は産後ママを中心に活動していますが、色々な世代が集まり交流を深め、様々な人間関係を築き助け合いながらより良い日常が過ごせるように、いつでもここに来て帰ってこれる『みんなのオアシス』となるように活動を続けたい。

声かけて、交流を深め日々楽しく!!

事業名 にこにこサロンの会の集い

助成額 7万円

◆地域での課題

ひとり暮らしの高齢者・超高齢者の多い地域です。

閉じこもりの高齢者、数少ない男性の方々にも声かけ参加することで交流を深め、安否確認の一端になるような活動に繋がりたい。

◆基金事業概要と達成した成果

コロナ禍の一年目(令和3年度)は地域支援センターの積極的な協力もあり、舞中になって取り組みました。

今年度4月は雨、7・8月は熱中症予防で中止。

実施は9回で参加者は延べ110人(男性9人・女性101人) スタッフ延べ44人

休憩をいれて60分~70分の歩行。土手歩きの解放感、道すがらの草花に興味津々。秋の実りでは柿・柚子・花梨・ピラカンサ等通り過ぎている枝をじっくり眺めます。明るく楽しく笑顔いっぱい心地よい時間を経て昼食をとる。フレイル予防・認知予防と健康づくりに繋がっています。

◆これからの取り組み

今年度は(令和4年度)は初夏にかけて新型コロナウイルス感染症の不安は予防接種をしても高く、秋には地域の会議等も動き始め、スタッフも気忙しくなり、体調も崩れがちでした。今後は室内活動を再開し三年間のブランクの事も考えながら、ポールdeウォークも定期的にして、交流できる場に戻るよう話し合いを続けます。



多摩川土手散歩 大根の花が咲いて、見事☺でした

団体名 にこにこサロンの会

会員数 6名

設立 平成28年(2016)

団体の活動目的 活動実績

★活動の目的★

ひとり暮らしの高齢者や高齢者所帯が多い地域で孤立した生活にならないよう、特に数少ない男性に声かけて交流を深め、安否確認に繋がりたい。

★活動実績★

実施計画は16回(2回雨で中止)14回開催中の参加者延べ196人(うち男性11人)。体験会は30分弱の歩きが中心で、秋からは地域の路地を散策し新たな風景に出会い、感動・驚き・発見を楽しみながら日々の明るい生活の健康に繋がっています。

いきちか学童クラブ運営会

事業名

いきちか花壇プロジェクト



助成額

15万円

◆地域での課題

- ・公園が汚い。大人によるポイ捨て等のルール違反を日常的に子どもに見せ続けている環境。
- ・蒲田地域にみどりや虫などの自然を学べる場がない。
- ・若い世代が地域のために活動できたりつながるための仕組みがない（費用、柔軟性、ICTなどの面で若い世代向けのものが少ない）。

◆基金事業概要と達成した成果

- ・**花壇活動**：だれでも気軽に自由に関われる体制で、地域の人を巻き込みながら定期的な花壇活動をしています。自主的に活動を楽しみながら、地域の新しいつながりが生まれています。
- ・**花の栽培委託（花の里親）**：地域の人にタネから花を育てるキットを配付し、公園のための花を自宅で育てていただいています。自宅で楽しく、体験学習と地域貢献が行われています。
- ・**花壇写真コンテスト**：花育てに興味がない人ともつながるように花壇写真コンテストを開催。新しい人がプロジェクトに関わるきっかけになりました。
- ・**ブログ、YouTube、SNSでの情報発信**：毎月の状況報告、花の説明、日々の花や公園の様子の報告、各種レクチャーなど、多様な分かりやすい情報発信を行っています。発信を通じて花壇現地に来られない人ともつながることができています。

◆これからの取り組み

- ・活動を長期に継続するための安定した収入を模索します。（寄付収入や事業収入など）
- ・子どもの活発な遊びとも共存できる花壇へと、花壇整備を行います。
- ・より多様な人とつながりながら、公園花壇の手入れ、タネからの花育てを続けていきます。
- ・堆肥などの土作りにも取り組んでいきたいです。



🌸「新蒲田二丁目児童公園」と「東矢口三丁目公園」で花壇活動をしています。

🌸つどの自主活動のほか、毎月の集合活動もあります。集合活動日は毎月第2週末（奇数月土曜、偶数月日曜）の10:30からです（夏季は16:00から）。予約不要、見学のみOK！ぜひ来てください！



🌸公園に植えるための花を、たくさんのご家庭で、タネから育ててもらっています（花の里親）。

🌸ほとんどの人が初めてのタネまき栽培ですが、チャットでつながってフォローし合っています。

🌸楽しみながら＆自宅で＆一定期間継続できる地域活動！！

🌸花を公園に植えたあとも成長を見に公園に通うことで、地域への関わりが継続します。公園パトロールにもなっています。

🌸フォローでの応援をお願いします🌸



団体名

いきちか学童クラブ運営会

会員数

3名（運営）

設立

令和元年（2019）

団体の活動目的
活動実績

私たちは、「生きやすい社会」の形成を目指します。
—子どもも、大人も、みんなが今より少しでもラクに楽しく生きられる社会を目指して—
・2019年7月～2020年3月：学童保育事業を通じた子どもの生きる力の育成と地域のつながり作り
・2020年9月～：公園花壇を通じた地域のつながり作りと主体的な学びのきっかけ作り

～SDGs 持続可能な社会教育推進～

事業名 SDGs五感で学ぶ会

～サステナブル（持続可能）&エシカル（倫理的）な商品や サービスの
選択を通じた “誰一人取り残さない” 社会教育推進～

助成額 15万円

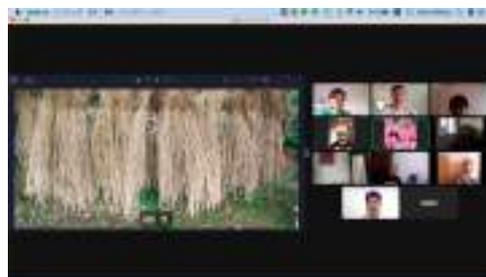
◆地域での課題

2030年までに17の目標達成に向け、小中学生はSDGsを義務教育で習っているが、大人は継続して学ぶ場が乏しく、行動に移しにくい状況です。学び、そして具体的な行動に移す力を育み、いかに多くの市民が我が事として捉え、一人ひとりが環境に配慮した消費行動を取れるかが鍵でもあります。



◆基金事業概要と達成した成果

コロナ禍においても毎月、自主事業を実施することができ、約120名の参加があった。弊会の目標である“一人ひとりが環境に配慮した消費行動に変えていく”という成果が確認できた。参加者との会話やアンケートからは、“五感で感じ考え、行動につながった”と伺え知り得た。また、毎月異なる企画をし、参加者が持ち回りでファシリテーターをしたことで、人材の育成にも繋がった。事業の実施にあたっては、感染症拡大防止のため、オンライン開催に切り替えた。今後、屋外企画を実現していく際には、リスクヘッジプランをしっかりと整備していく必要があることがわかった。



◆これからの取り組み

子どもと大人が分け隔てなく、思いをお互い伝え合うことで未来につながる新しい何かが生まれることが当会で実感できています。今後は更に他団体との連携を強化して、地域貢献、普及啓発の促進にも力を入れていきます。多様性を意識しつつ、お互いが尊重し合う会を継続していきます。



団体名 SDGs五感で学ぶ会

会員数 20名

設立 令和2年（2020）

団体の活動目的
活動実績

2020年からの10年間はSDGs目標達成に向けた『行動の10年』。我が事として捉えられるよう、お互いがファシリテーターになって学びあい、そして、行動に移す会です。「誰ひとり取り残さない」という考えのもと、一般の区民に広く参加を呼びかけ、幅広い年代の人々が月に一度集まり、SDGsについての学びを深めています。

令和4年度 活動報告書【田園調布落語会】

事業名

落語・講談・紙芝居・読みきかせ・映画鑑賞会・ワークショップなどの開催

助成額

15万円

◆地域での課題

伝統芸能、日本文化を通じて親子・三世代で楽しめるイベントを企画し、町会との協働により実現しました。地域住民の文化的交流、せせらぎ館の有効活用をはかっています。

◆基金事業概要と達成した成果

田園調布せせらぎ館他において

- 落語会の開催→100名もの地元を中心とするお客様が訪れました。太鼓は町会や小学校のものお借りしました。
- こども落語ワークショップの開催
助成金を利用し、プロの落語家による体験型落語教室を無料で開催しました。
- 小学校で落語の授業 5年生に向けて落語の講義と実演をしました。
- 町会夏祭りやシニアステーション田園調布でのボランティア落語会

◆これからの取り組み

今後はさらに多くの皆さまに参加いただけるようなイベントを企画していきたいです。
好評だったシニア向け落語会や子ども向け落語ワークショップも引き続き開催していきます。
せせらぎ館では、落語教室、着物や茶道の会も企画し、さらに地域のシニア世代、町会・団体との協働を進めつつ、地域住民の交流をお手伝いしたいです。



こども落語教室開催

- 日時・令和5年1月5日(木)12時から13時
- 場所・田園調布せせらぎ館1F多目的ホール
- 料金・無料
- 年齢・どなたでも(小学生向けの内容)

◇保護者、ご家族の観覧は自由です。
◇お子さまだけのご参加も可能(小学生以上)

◇プログラム
▶ 12時にせせらぎ館1F多目的ホールに集合
▶ プロの落語家さんからの指導
▶ 13時に終了、各自でお昼
▶ ご希望のお子さまは無料
▶ 14時からの落語会「田園調布寄席」の観覧ができます(保護者の方は1人2000円)

◇申し込みは
●お申し込みは◎全員のお名前◎学年◎年齢◎保護者のご連絡先◎落語会のご予約人数をメール、または下記までお電話ください。

■田園調布落語会・
denenchofu.rakugo@gmail.com
090-4065-4428・小島



団体名

田園調布落語会

会員数

15名

設立

令和3年(2021)

団体の活動目的
活動実績

落語会、落語ワークショップの開催

NPO 法人ソシオキュアアンドケアサポート

事業名 ホットサロン開催とハンドマッサージ講習

助成額 18万円

◆地域での課題

コロナ禍の外出抑制により、コミュニケーションの機会減少でストレスや孤独感を感じる方が増えました。触れるケアはオキシトシンの分泌を促し、心に充足感を与えます。セルフケア、また身近な方へのコミュニケーションとしてハンドマッサージを活用し、集う場で活力を得て元気な毎日を過ごしてほしい。



◆基金事業概要と達成した成果

月に1度、区内の会議室にてストレス軽減を目的にアロマ精油を用いたセルフハンドマッサージの方法を講習形式で実施しました。また、誰かに提供する場合の方法についても学びました。

傾聴を伴うハンドマッサージについて有資格者によるケアも希望者は体験することができました。

サロンではハンドマッサージを練習したり、参加者同士のコミュニケーションの場として開催。

8月から9回の実施でのべ106名が参加されました。様々な悩みや困難を抱えておられる方も、家族や友人とともに参加されて癒しの時間になっています。



◆これからの取り組み

私たちは被災地において傾聴ハンドマッサージによる支援を継続的に行ってきました。防災時に避難所などで手軽にできるコミュニケーションツールとしても広めたく引き続き多くの方へハンドマッサージ講習に参加いただけるよう続けます。また、認知症やがんといった疾患にかかっても身近な方が癒しの時間として提供できるよう支援していきたいと思っています。

ホットサロンで顔見知りになり輪が広がること、笑顔を生み出す活動を続けたいと思っています。



団体名 NPO 法人ソシオキュアアンドケアサポート

会員数 34名 設立 平成20年(2008)

団体の活動目的 活動実績

加齢、疾患、障がい、災害、暴力など困難な状況にある方へソシオエスティック（傾聴を伴う美容ケア）を病院、施設で提供している団体です。コロナ禍では施設訪問が縮小したため、ケアが受けられる居場所づくりのための「ホットサロン」を各地で開催しています。大学、専門学校、都立高校で「QOL 維持向上のための美容ケア」授業担当のほか、地域の方へハンドマッサージの講座実施など「人生100年時代」を自分らしく生きる「美と癒し」をテーマに活動しています。

羽田ふるさと再生プロジェクト始動！

事業名 大師橋干潟・河川敷の環境再生プロジェクト

助成額 40万円

◆地域での課題

多摩川大師橋干潟や河川敷には生活ゴミや廃棄物の不法投棄されたゴミが目立っており、10年以上当倶楽部でも清掃をしてきた。ここ数年、授業支援の依頼も増え、たくさん子どもたちがこのゴミを通り抜けて干潟に向かっている。また、2019年の台風19号がもたらした大きな流木や粘土質の高いヘドロの堆積で定例干潟の観察会や、小学校の授業支援にも深刻な影響を与えている。この現状を改善することが一つの課題であり、もう一つはこの現状を地域の方々でも知らない方が多いということである。

◆基金事業概要と達成した成果

まず羽田地区の21町会に出向き現状の説明と環境整備への協力をお願いした。何名かは参加して下さったが、コロナ禍であること、暑さが厳しくなる頃であったため、年配の方が多いためからの協力はなかなか難しいものがあった。しかし、オープンチャットというSNSを見て参加して下さる方、青少対委員の方々、かわさき水辺の楽校の方々など少しずつ輪が広がり始めており、今年度収集したゴミは1100kgを超えた。さらに国交省京浜河川事務所でブルーシートの廃屋も含め大きなゴミを回収してもらうことが出来、見違えるほどきれいになった。



◆これからの取り組み

ゴミに関しては継続していくことが必要で、さらに流木を小さく切断して撤去したり、表面のゴミだけでなく長年堆積している土に埋もれたごみの回収を進めたり、干潟一帯としての環境を整備していく。これには、たくさんの方々を巻き込み、共にふるさとを創っていくという思いを共有できるようにしたいと考えている。



団体名 多摩川とびはぜ倶楽部

会員数 15名

設立 平成24年(2012)

団体の活動目的
活動実績

首都東京に残された貴重な多摩川河口の干潟・河川敷の自然環境を再生し、そこに生きる生きものたちの生息環境を守ること。
定例干潟の観察会 近隣小学校への授業支援等

一般社団法人 EXPRESSION

事業名

大田区田園調布発信！
朗読劇「絵本リトル・ツリー」（作 葉祥明）

助成額

40万円

◆地域での課題

『コロナ禍 感染防止対策を実施し、我慢してきた交流を再開しなければならない』

- 三世代で取り組む朗読劇の演目を 地元田園調布せせらぎ公園が発祥の『リトル・ツリー』とした。
- 練習会場を地元地域の大田区立田園調布中学校やシニアステーション田園調布とし、本番会場も大田区内の区民プラザ小ホールとした。
- 事業の告知を大田区民協働活動団体連絡会や田園調布二丁目自治会にご協力いただいた。

◆基金事業概要と達成した成果

2022/9/11 遠隔操作ロボット OriHime 導入企画

2022/9/25 EXPRESSION 朗読劇『リトル・ツリー』開催

2022/9/27 小児がん啓発月間チャリティーご報告

(1) 2022/9/11 遠隔操作ロボット OriHime 導入企画

企画の支援先である認定 NPO 法人シャイン・オン・キッズさんの協力で遠隔操作ロボット OriHime を導入し、EXPRESSION のレッスン会場と重い病気で自宅療養中のとみ君とねねちゃんをつながり交流。EXPRES メンバーの『Believe』『いのちの歌』の合唱中、OriHime を操作するとみ君やねねちゃんが一緒に歌ってくれている声が聞こえたり、ロボットが手をたたいているときはねねちゃんやとみ君が拍手をしてあげていることなど、離れていても近くでつながっているような感動の体験。EXPRESSION の子ども達と同じくらいの年齢の子ども達が感染防止対策で友達にも会えない中病気で闘っていること、また小児がん経験者のスタッフの方の自身の闘病体験談を直接聞いた。



(2) 2022/9/25 EXPRESSION 朗読劇『リトル・ツリー』開催

2019年『赤毛のアン』公演以来3年ぶりの発表の機会となり、この日を待ちわびてご来場くださった皆様にあたたかく見守って頂き、コロナ禍練習してきた成果を発揮。原作の葉祥明先生もご来場。9月は小児がん啓発月間であり、「Believe」「いのちの歌」「愛すること愛されること」の合唱に加え、認定 NPO 法人シャイン・オン・キッズの小児がん経験者の子ども達とスクリーン共演で歌った「ぼくらは一つ」を通して、『リトル・ツリー』のテーマである「人は支え合って生きていくこと」の素晴らしさを会場の皆様と分かち合うことが出来た。



(3) 2022/9/27 小児がん啓発月間チャリティーご報告

EXPRESSION 朗読劇『リトル・ツリー』と共に『いのちの歌』チャリティーコンサートを行ない、小児がんや重い病気で闘う子ども達を支援する認定 NPO 法人シャイン・オン・キッズへの寄付を呼びかけた。本番当日会場で募金およびチャリティー物販にて以下の金額が集まり報告。
<寄付総額：55,950円>
物販 37,800円 / 募金 18,150円
主催 一般社団法人 EXPRESSION
後援 北鎌倉葉祥明美術館、田園調布二丁目自治会、おた区民活動団体連絡会



協力 大田区立田園調布中学校、シニアステーション田園調布

◆これからの取り組み

- コロナ禍、子どもも大人も生活様式が大きく変わり、活動への参加も積極的に出来なくなった状況乗り越え、メンバー募集を地域の様々な活動団体にご協力を呼びかけ、その中で互いの活動について理解と協力を深めていきたい。
- 病院や高齢者施設等々への積極的な慰問がコロナの状況下難しい場合は、動画を作成し届けるなど常に社会とつながり、小さなことでも誰かのお役に立つことを子どもの内から身につける活動を心がけたい。

団体名

一般社団法人 EXPRESSION

会員数

6名

設立

平成 27 年（2015）

団体の活動目的
活動実績

学校や学年の違う子ども達と子ども達の一番のサポーターである大人達三世代が大家族のように集まり、地域の施設を練習・本番会場に使用し、プロフェッショナルの指導のもと様々なチャレンジをする。病院や高齢者施設への慰問や『社会に貢献出来る』様々な表現や発信を継続する。

防災助っ人集団 やっこさんの会

事業名 「大田区で防災について考えるつどい」

助成額 16万円

◆地域での課題

自然災害はあまねく、等しくみんなに降りかかります。
 自然災害（地震、水害）について、その被害状況は、同じ区内でも場所によって違いがあります。大地震による倒壊家屋が多い地域、多摩川が氾濫することによって、水没する危険がある地域など、地域によってさまざまな災害があり、それに対応していかなければなりません。

防災かるた

☆かるたのことば にいくらたろう
 ☆かるたの絵 ののむらけんぞう



← 災害対応シミュレーション訓練 (図書館編)

◆基金事業概要と達成した成果

①防災かるた体験会

防災かるたを作ってそれを子どもたちと一緒に遊ぶ。遊びながら防災の知識を習得していくという優れたモノ。子どもたちは楽しくおかしく遊びながら“防災”を学ぶ。

②災害対応シミュレーション訓練（図書館編）

図書館において、大地震が発生したらどうなるか？そしてその時にスタッフはどう対処したらよいか？…それを机上でシミュレーションしながら考える訓練。公共施設での行動はジレンマだらけ。

③「私はフクシマの証言者」…原画展と朗読ライブ

R.4.11/19(日)に実施。福島第一原発の被害者を取材している菊池和子さんを招いて講演会を行い、菊池さんの書いた本を菊池さん自身が朗読し、それに合わせてバイオリンの伴奏をいれた朗読ライブを実施した。震災の惨状を紹介していくことこそ、風化を防ぎ、そしてそれがすなわち、来るべき災害に備えることになる。

④HUG(避難所運営ゲーム)ー多摩川氾濫編ー

大雨が続き、多摩川が氾濫する危険性が高まった。避難所が開かれ、地域住民が避難所にやってきた。…そのときからゲームが始まる。さまざまな困難に直面しながらも避難所スタッフは頑張って避難所を運営していく。時系列で避難所の運営を机上で体験するもの。

⑤つるし雛展&災害語り部講演会

宮城県東松島市にお住いの伊藤まさ子は 12 年前の東日本大震災の被災者です。やるせない想いを埋めたのがつるし雛や人形の制作でした。震災を風化させない。災害に備える。そんな気持ちから伊藤さんのつるし雛や人形を展示して、伊藤さんのお話を聞きました。



菊池和子さん



私はフクシマの証言者
—原画展と朗読ライブ—



齋藤友香理さん



HUG: 避難所運営ゲーム(多摩川氾濫編)



つるし雛展
&災害語り部講演会



◆これからの取り組み

過去の災害を学び、過去の災害を風化させないことが最大の防災対策である、という強い信念のもと、わたしたちは、大田区内でこれからも防災について区民と考え、対策を講じていきたい。

団体名 防災助っ人集団 やっこさんの会

会員数 12名 設立 平成30年(2018)

団体の活動目的
活動実績

災害を経験していない“未災者”ということを理解して、経験者に学び、想像することを大切にしたい防災活動をする。
 設立より今日まで年間5回のペースで防災のイベントを行っている。

「身体はシッカリ・言葉はハッキリ・顔はニッコリ」

事業名

「更に体力向上！！」ポールウォーク・グラウンドゴルフ・輪踊り

助成額

30万円

◆地域での課題

「こども SOS」の看板を開設時より門柱に付けております。そのご縁で子育て世代からシニア世代まで出入りしております。

いつ、いかなる時も、知り合い・家族・仲間に囲まれながら「安心・あったか・明るく・元気に！！」活動することを目標に行動しております。

◆基金事業概要と達成した成果

2022年も予定通りに実施しました。今年も実行いたします。

毎週月曜日と火曜日	午前8時00分から 本羽田公園 運動とグラウンドゴルフを実施(毎回 30名の参加)
第2水曜日	午前10時00分から 穴守稲荷神社・海老取川公園 史蹟速歩会を実施(毎回 20名の参加)
第3日曜日	午前10時00分から 萩中集会所 ニコニコ講座・運動を実施(毎回 25名の参加)
第4月曜日	午前10時00分から 萩中集会所 健康福寿講座・運動を実施(毎回 40名の参加)
隔月	健康延伸宿泊講座を実施(毎回 35名の参加)

◆これからの取り組み

- ・「ゆりかご」から「虹の橋」を渡るまでの全世代の高揚を目標に努力、研鑽、勉強をいたします。
- ・全会員が自主的に「一コマ講師」を担当できるよう研究いたします。
- ・全会員が「施し」「感謝」をもって地域に社会に貢献いたします。
- ・写経、書道、短歌の集会を開始いたします。

団体名

大田健康福寿会

会員数

50名

設立

平成29年(2017)

団体の活動目的
活動実績

当会は全世代の①融和②努力③勉強④進展を目的に活動をしています。
グラウンドゴルフ会 96回、史蹟速歩会・ランチ会 12回、ニコニコ講座 12回、健康福寿会講座 12回、健康延伸宿泊講座6回

SDGsだれひとり取り残さない地域社会を作ろう!

事業名

国勢調査 2020 から SDGs
～リサイクルを通じた地域貢献～

助成額

23万円

◆地域での課題

SDGsの基本理念「誰一人取り残さない」を地域で共有する機会がありません。「貧困の撲滅」を実現することも食堂の活動、「住み続けられるまちづくり」をめざすコミュニティ活動など、地域社会に生きる多様な人々との繋がりをつくり、皆で地域をよくするように合意を形成する必要があります。

◆基金事業概要と達成した成果

国勢調査の手提げをリユースする活動を継続しました。就労継続支援B型作業所と協力して、シルクスクリーン印刷のリメイクバックを開発し大田区のイベントなどで広報・販売しました。他に福祉の通販サイトに参加準備中です。また、地域貢献として、リメイク教室を区内4箇所で地域の市民活動をしている人々との共同で行いました。具体的には六郷地区大規模マンションの管理組合の協力による集会室、上池台のコミュニティカフェ、こども食堂(2箇所)の協力によるふれあいはすぬまとUR南六郷二丁目団地で教室を開催しました。コロナ禍の密を回避して小規模(20名~30名)で実施しました。11月12日には、学校からの要請をうけ、南六郷小学校の6年生2クラスの特別授業としてリメイク教室を出前講座として開きました。



◆これからの取り組み

大田区から譲渡されたものがすべて再利用できるように、法人の独自事業として継続していきます。今年度実施できなかった、デザインコンテスト(仮称)を実現させたいとおもいます。幅広い年齢の人々に気軽に参加してもらえるような活動の方法を模索し、地域の特性や繋がりを尊重しながらも、全国規模の活動へと発展させることが目標です。この事業の経験を踏まえて、3年後の次回国勢調査では資源を有効に活用するように行政に提言していきます。



団体名 一般社団法人 ヒューネットアカデミー

会員数 5名

設立 平成29年(2017)(法人登録)

団体の活動目的 個人の多様性を組織や地域社会で活かすために、基本的人権の尊重を基本とし、個人の発想や創意工夫を社会的活動の創造へとむすびつけることを目的としています。これまでも、UD 理念を大切に、車いすユーザーが自由に移動できる街や建物の整備の重要性を伝えてきました。

おとな&こども・ほっとネット

事業名

子どもの自立を育てる保護者の子育てカアップと交流&親睦活動の促進

助成額

30万円

◆地域での課題への取り組み

- ①希薄になってきている家族のきずなを強める活動
- ②地域のなかで孤立しがちな子育て世代の交流の場づくり
- ③父親、母親の活躍の場づくり
- ④多世代間の交流の場づくり
- ⑤多文化交流の場づくり
- ⑥遊びを通しての子どものダイナミックな育ち

◆基金事業概要と達成した成果

- ① 4月29日 いのちの話講座 性教育から見えてくる子どもの人権 外部から講師を依頼し子どもの性と人権に関する講座開催（参加 45名）
- ② 7月23・24日 ほしぞらキャンプ ゆいっつにて親子手作りイスと自然体験を通じ家族の触れ合い、参加者同士のつながり形成（参加者 27名）
- ③ 9月18日 こどもデザインフェスタ！
大田区で活躍しているものづくり作家が PIO に大集合！当日は台風にもかかわらず多くの子が自分の作品を作って大満足。（参加者 2000名・内体験者 1499名）
- ④ 2月19日 ファミリーコンサート はるがきたよ ラトレによるクラシックコンサートを通じ本物の音楽に触れ心を豊かに（参加者 160名予定）
- ⑤ 3月5日 アソビたいけん！サイエンス
東工大助教授を招いて簡単で驚きのあるコマ遊び体験（参加者 100名予定）



こどもデザインフェスタ！

大田区産業プラザ PIO で 1500 名が体験。笑顔で夢中になってものづくりをした子どもたちがいっぱい。



いのちの話講座・ほしぞらキャンプ

親と子どもに大切ないのちの話、性教育についてもしっかり学び、宿泊イベントで親子の絆とつながりを深め、ものづくりとネイチャー体験で子どもの感性を刺激！



新しい事業も、スタートアップからの継続事業も！

ステップアップ事業で新しい事業、こどもデザインフェスタ！人権・性講座を開催。スタートアップからの事業もコロナ禍を乗り越えしっかり継続し開催しました！

◆これからの取り組み

年間を通じて、親子の遊びと繋がりをつくり、参加者同士の交流を軸に活動基盤ができています。

大田区全域で幅広く活動を行い、運営と一緒に携わる家族と参加者が遊びや体験を通じ「この世界は楽しみにみちあふれている」ことを実感し、こどもが公園でニコニコ遊んでいたなら自然と輪が広がるように様々な年代の方が関わってくれるような団体をめざします。

団体名

おとな&こども・ほっとネット <https://www.facebook.com/otonakodomohotnet>

会員数

10名

設立

平成30年（2018）

団体の活動目的
活動実績

子育て家族のしあわせと家族みんなが輝ける大田区をつくることを目的に結成



一般社団法人精神障害当事者会ポルケ

事業名 メンタルヘルス・精神障害理解啓発プロジェクト

助成額 30万円

◆地域での課題

精神障害は病苦とは別に、偏見や差別の根深い問題があります。地域共生社会づくりに向けて、障害の有無にかかわらず、違いを認め合う社会づくりが必要です。メンタルヘルス(心の健康)はあらゆる人々にとって大切な価値ともいわれています。精神障害の経験を活かした理解啓発の取り組みが期待されています。

◆基金事業概要と達成した成果

初年度は、精神障害のある人の視点を通じて、あらゆる人々にとって大切な考え方であるメンタルヘルスと精神障害に係る理解啓発を活発に行うことができました。多様な地域共生社会づくりに向けて地域に根差した事業を展開することができました。事業実施に際して、21 の関係団体・機関から名義後援をいただきました。

2 年目は、初年度の知見を動員した啓発資料作りに取り組みました。成果報告については、メンバーがプログラム委員を務める日本統合失調症学会プレ企画において実施しました。資料冊子を作成しました。

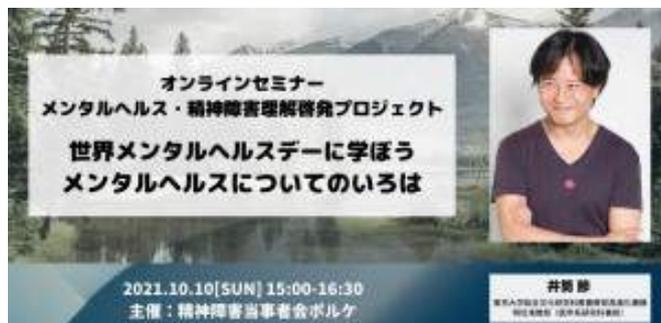
◆これからの取り組み

全国的にも稀有なメンタルヘルスと精神障害理解という両輪による啓発プロジェクトを障害者団体として行うことができました。今後は、プロジェクトを通じた知見を活かした政策提言や各種の関係団体と漸進的に理解啓発の取り組みを推進してまいります。

地域の多様性理解に貢献するべく、地域の関係団体とともに地域力を育んで行きたいと存じます。なにかお力になれることがあればお気軽にお問い合わせください。

■第1回 オンラインセミナー

2021.10.10 世界メンタルヘルスデーに学ぼう メンタルヘルスについてのいろは(講師:井筒節氏 東京大学)



■第2回 オンラインセミナー

2021.11.14 世界の精神障害者運動のこれまでと現在地 (講師:伊東香純氏 中央大学、桐原尚之氏 立命館大学)



■第3回企画 ポルケ写真展 2022 IN おおた(2023.2/26~27)

講師:柴田大輔氏(フォトジャーナリスト)



団体名 一般社団法人精神障害当事者会ポルケ

会員数 正会員：4名
ネットワーク会員：77名・7団体
お話し会メンバー登録：187名

設立 平成28年(2016)

団体の活動目的 活動実績

東京都内を拠点に活動する精神障害者によって運営をされる障害者団体です。当事者交流お話し会をはじめ精神障害のある人の場づくりの活動、理解啓発の取り組み、ソーシャルアクションに取り組んでいます。近年では、多方面での活動を評価いただき、公益社団法人こころのバリアフリー研究会より、こころのバリアフリー賞を受賞いたしました。

NPO 法人文化活動支援機構フォレスト

事業名 おおた俳句大会

助成額 30万円

◆地域での課題

課題は「地域内から地域間、そして世代間など広く交流しやすい環境を創出する」こと。

俳句は児童から高齢者まで楽しめる日本古来の文芸です。楽しむための入口は広く易しく、そして奥は深く、正解のない自由な文芸です。この俳句を通し、俳句を話題として、誰もが交流できる環境づくりを目指します。例えば、公園でおじさんと子供が同じ風景を見ながら、こういう風に見えるねとか感じるねなどと話せるような、そんな景色・地域づくりの一助となることです。



◆基金事業概要と達成した成果

区民を中心に広く句を募集し、応募された句の中より、区内在住の選者（俳人）によって入選句を選び、「おおた俳句大会」で発表します。

今回、句は約3035句集まりました。俳句を楽しんでいる方々からは、「俳句をつくる意欲につながる」など、小中学校で俳句を教えている先生方からは「授業でつくった俳句が社会で評価され、生徒の関心や興味がわく」などととともに「継続を望む」多くの声が寄せられました。

まちづくり関連の団体や地域イベントとの協働などは、コロナ禍の影響で今回もまた実現までは至りませんでした。その検討の継続が引き続きできることとなりました。また、小中学校とは授業と連携した開催の検討も行われるようになり、今回、小中学校からの句の応募は前回の約1.4倍に達しました。

◆これからの取り組み

- ・より多くの区民にこの事業を周知すること
- ・俳句を通して町や自然をみて、歴史や文化に触れるような活動をこの事業と連携させること
- ・他団体や地域との連携・協働イベントを開催すること。
- ・小中学校・高校の授業との連携を更に図ること。 など

団体名 NPO 法人文化活動支援機構フォレスト

会員数 16名 設立 平成17年(2005)

団体の活動目的 活動実績

広く一般市民を対象として、市民の主体的な文化活動を推進し、支援することを目的に活動しています。講座・講演会の開催から、イベントの企画・開催、市民交流、文化活動の普及・啓発など幅広く事業を行っています。
「緑のカーテン講習会」「命の森プロジェクト」「フォレスト落語会」「ハーブ講習会」等

アートで発散!! free campus に自分の想いを。

事業名

コロナ渦でも持続可能な、組織のクリエイティブ活動。
(ウォールアート)

助成額 30万円

◆地域での課題

物質的な豊かさや便利さの中で生活する一方、学校での生活、塾や習い事に時間をとられ、生活体験・原体験が著しく不足する子どもが増えています。地域社会に目を移せば、都市化の進行、過疎化や連帯感の希薄化など地縁的な地域社会の教育力は低下する一方です。これを地域課題として真剣に取り組まなければならない現状があると捉えています。

【ウォールアートペイント企画】

羽田小学校（北門前）にて



◆基金事業概要と達成

コロナ禍で保護者の不安も募る中、その影響は少なからずとも子どもたちのストレスとして蓄積されていました。どんなに厳しい状況でも異議を唱えることができない子どもたちが、イベントを通して用意したキャンパスへ想い思いにエネルギーをぶつけ、たくさんの笑顔を残してくれました。



芸術療法的な支援も認知度を上げる中、アートの側面からアプローチする屋外活動には、感染拡大の防止や飛沫の軽減にも効果を発揮できたと感じています。子どもたちの笑顔が絶えずあったことはもちろんですが、ボランティアの募集や他団体や近隣の教育機関への呼びかけにより、新しい関係性の構築にも期待を持って、また支援の幅にも希望が膨らみました。こういった視点からも大変良い機会を頂けた事業でした。



◆これからの取り組み

なぜ、子どもたちに芸術的アプローチが必要なのでしょうか。他者との違いや、他者との接触で起こる化学反応には様々な相乗効果に期待が持てます。今回のように屋外イベントを大規模イベントとして据え置きながら、コンパクトなワークショップにも目を向けてイベントの機会を徐々に増やしていく予定です。現状の教育環境だけでは自己肯定感が育たないことも我々は懸念しているため、感染防止の新しい開催方法の取り組みを視野に入れながら、アートを意識した取り組みに挑戦していくことを目標に前進してまいります。



団体名 きつねの学校（任意団体）

会員数 10名

設立 平成23年（2011）

団体の活動目的
活動実績

子どもたちやその保護者に対し、学習支援やアートなどを通じて、子どもの学び場・遊び場・居場所の提供及び運営を行なう団体です。支援活動の場における、子どもの居場所づくりという理念を基本にコミュニケーションの場や学習機会を提供することで、共に学び育っていく場を創造しています。子どもの健全育成や、まちづくりの推進、国際交流など社会教育の増進活動を行うことで、地域の子どもの保護者たちが活気に溢れ元気に生活できるよう様々な場面に貢献することを目的としています。

みんなの広場

きょうもおいで

事業名

大森西地区の多様性ある居場所
「きょうもおいで」プロジェクト

助成額

100万円

◆地域での課題

- ・地域の活動に参加できない、きっかけをつかめない人たちがいる。
- ・子どもや高齢者の第3の居場所として機能する場所がない。
- ・ボランティアで、何か自分の力を地域や社会に役立たせたいと考えているが一歩踏み出せない。



プレオープン (弁当試食会・流しそうめん・スイカ割)

◆基金事業概要と達成した成果

- ◎ 地域の子ども、大人、その中の高齢者、障がい者等、全世帯さまざまな人がかかわる居場所としての機能を持った広場の提供をする。
- ① 居場所、食堂としての開催日数 40日(8月25日プレオープンから、見込みを含む) 作品づくり、プチ遠足等のイベント 24回(3月末まで)を含む。
- ② 参加した方々、老若男女 延べ973人 (3月27日まで)
- ③ 参加者の中で、開催日を待っている方々やイベントを楽しみにして来られる方もいる。
- ④ スタッフのボランティアへの意識が高まった。



駄菓子の販売



ハロウィン Tシャツ作り・仮装パレード

◆これからの取り組み

- ・安心していられる場所としての認知を広げる。
- ・イベントを機会に、広場を知ってもらい、親子、他の人たちがゆったりとできる場をつくる。
- ・ボランティアスタッフが働きやすい場として、毎回簡単な反省を行い、記録を残し、スタッフ会議で報告する。



高齢者の方の憩いの場



羽田イノベーションシティ見学



折り紙サンタ作り



パラコードを使ったストラップ作り

団体名

ふれあいこどもクラブ

会員数

41名

設立

平成16年(2004)

団体の活動目的
活動実績

子どもたちが地域の大人(高齢者、障がい者、町の人々)等と交流する機会を創出し、こどもの成長の支えとなる場を立ち上げた。保護者へのフォローを欠かさずに、町会、民生委員、PTAとの共同連携をしながら、約20年に迫る活動を続けてきている。

スポーツを通してみんな笑顔になろう

事業名

パラスポーツをみんなで楽しもう

助成額

126万円

◆地域での課題

コロナ禍では乳幼児親子の孤立・高齢者の孤立と体力の低下、認知力の低下が大きな課題。

障がい者がスポーツをする機会がなかったのは以前からの課題。



ペーパーボール 知的障害のある子供たちの運動量を高めるため、思考錯誤で創り出した日本発のスポーツです。ボールがくっつくポンチョを着た鬼役を追いかけ、ボールをくっ付けて、その数を競うゲームです。

◆基金事業概要と達成した成果

パラスポーツ・ユニバーサルスポーツ体験会…7回

新しいパラスポーツ・ユニバーサルスポーツ体験会…2回

パラスポーツ・ユニバーサルスポーツ教室…12回

身体測定、体力測定、健康相談…3回

パラスポーツ・ユニバーサルスポーツへの理解が深まった。

パラスポーツ・ユニバーサルスポーツを開催している団体という事を周知できた。

障がい者がスポーツをする機会が少ないという事を実感できた。

色々なパラスポーツ・ユニバーサルがある事を知ることができた。

手のひら健康バレー
椅子に座って、軽量ボールを指でなく手のひらに当てて、ボールを落とさないように何回続かかを仲間と一緒に楽しむ室内レクリエーションスポーツです。



モルツク
モルツクという木の棒を投げて「スキトル」と呼ばれる12本のピンを倒し、点数を競うゲーム。

◆これからの取り組み

パラスポーツ・ユニバーサルスポーツができる場所を増やしていく。

パラスポーツ・ユニバーサルスポーツの指導者を増やしていく。

パラスポーツ・ユニバーサルスポーツを通して障がい者の理解を深めていく。

パラスポーツ・ユニバーサルスポーツを体験することで地域の世代間の交流を深める。

どのように工夫してパラスポーツ・ユニバーサルスポーツを開催していくかを考えたい。

ダンスのスマイル
DANCEを通して笑顔になりましょう。障害の有無に関係なく、子供から大人までみんなで楽しくDANCEをします。



団体名

NPO 法人スマイルかまた

会員数

100名

設立

平成27年(2015)

団体の活動目的
活動実績

子どもから高齢者・障がい者も活動ができ、多世代間のコミュニケーションを図る場を設ける。健康づくりや生きがいづくり、仲間づくりの場を設ける。地域住民が互いに知り合い、協力しあうことにより、地域力を向上させる場とする。ママとベビーのダンスクラス・筋力アップ体操・ポッチャなど各種教室を開催している。

「郷土の歴史を繋ぐ 海苔を味わう海苔の日」

事業名 「郷土の歴史を繋ぐ 海苔を味わう海苔の日」

助成額 145万円

東京都大田区は日本屈指の海苔問屋集積地域であり、かつての「大森」は、海苔養殖発祥の地として良質で美味しい海苔の採れる、質、量ともに日本一の産地であり当時の東京府より日本で唯一「本場」の名称を付けることが許された「海苔の聖地」でもあります。確かな歴史や伝統がありながら大田区大森がかつて海苔養殖を行っていたことや、今でも海苔産業の拠点として、問屋毎に全国の海苔を買い付け、全国の卸先に流通していることの認知度が低下している実情があります。これらの課題を踏まえ、大田区内の小中学校の児童・生徒を対象に【海苔の日】に合わせ、昭和35年より以前は一大産地でもあった海苔養殖業の歴史を後世に繋ぐ事業を計画するとともに、海の野菜とも言われる海苔の栄養素に着目し、新たに海苔を題材とした食育を推進いたします。

◆基金事業概要と達成した成果

基金事業である郷土の歴史を繋ぐ事業として2月6日に実施した概要は次の通り。

2月6日の「海苔の日」に合わせ、大田区立の小中学校の生徒へ大森海苔のリーフレット及び海苔を配布し、食育及び歴史のPR。当事業の参加者は大田区内小中学校全生徒の参加となり、教職員含め延べ**44,940名**となりました。

海苔の食育スクールについて10校の応募があり、内4校にて実施致しました。

また、全校生徒に向けた【大森海苔PR動画】を作成、2月6日に配信させて頂きました。

<https://www.youtube.com/watch?v=VSv-Hg5EnyI&t=126s>

◆これからの取り組み

・2年間活動を行い、事業の概要・予算・スケジュール等が認識でき、今後は大森海苔組合にて継続を行い、食育及び歴史のPR活動を行います。



← イベント当時の海苔を使用した給食。

授業風景 →



大森海苔まるわかりBOOK概要 ↓



団体名 大森本場乾海苔問屋協同組合

会員数 48企業

設立

昭和27年(1952)

団体の活動目的
活動実績

組合員の取り扱う海苔(関連資材を含む)の共同購買、共同販売、共同保管、共同運送。

組合員に対する事業資金の貸付け及び組合員の為にする借入。

組合員の事業に関する経営及び技術の改善向上又は組合事業に関する知識の普及を図る為の教育及び情報提供。組合員の福利厚生に関する事業。上記事業に附帯する事業。

NPO 法人大森コラボレーション

事業名 地域と区民活動をつなぐ ICT スキルアッププロジェクト

助成額 193万円

◆地域での課題

コロナ禍で人との交流や対面活動が制限される状況や、風水害被害や、地震火山など災害の多発化が心配される中、デジタル化の波はどんどん押し寄せている。この波を乗り越え IT 機器の活用を誰もが出来る社会づくりを進める必要がある。



LINE 活用などを支援 団体向けボトムアップ型事業

◆基金事業概要と達成した成果

誰もが IT 機器を使いこなすことができる環境づくりを目標に、一人ひとりの ICT スキルの向上と、団体活動での ICT スキル向上をめざす。

個人向けスマホ教室、PC 活用教室や、団体向けボトムアップ型事業で ICT に関する相談支援を行い、丁寧にわからないこと、困りごとへの支援を実施スキルアップにつなげた。

オンライン防災ワークショップなどを実施し、いざという時の IT 活用法を紹介した。



スマホ相談会



オンライン防災ワークショップ

小学生向けワークショップ

◆これからの取り組み

- ① 予約制相談会や個別相談会の実施
引き続き個別具体的な伴走型支援の継続
- ② 「(仮) パソコンカフェ」の実施
地域内でパソコンを通しての仲間づくり、居場所づくり、情報収集の場の新設
- ③ 未来体験事業の実施
中高生対象にパソコンでプログラミング体験など、自身の将来展望へもつながるようなイベントの開催。



いざというときのスマホの活用法などもレクチャー

団体名 NPO 法人大森コラボレーション

会員数 34 名 設立 平成 18 年 (2006)

団体の活動目的
活動実績

廃校となった大森第六小学校の跡施設活用を地域住民で提案、区との協働で、区民活動支援施設らぼ大森を開設。施設運営を事業者として担い、地域力による地域の活性化や安心した暮らしづくりに寄与している。平成 30 年より総合型地域スポーツクラブソシオ大森を立上げ、まちの元気づくりの活動も充実化を図っている。

地域子育て見守りネットワーク構築に向けて

事業名 ジェネラルサポート・おおた

助成額 211万円

◆地域での課題

地域での子ども達を応援し、見守るという事は簡単そうで簡単ではないことに気づきました。地域の皆さんが子ども達に声をかけて下っても、「不審者情報として流れる」など多世代間交流が希薄化しています。当ジェネサポ・おおたでは、地域の皆様や様々な機関と子どもたちをつなぐことで、地域で安心できていろんな人との交流を通じて成長できる「みんなのリビング」となれる居場所をつくりたいと考えています。



子ども達と室内で遊んでいる様子

◆基金事業概要と達成した成果

弊法人の目指すミッションの一つは、「弊法人が社会の隙間から落ちてしまう子どもや保護者のセーフティネットになること。」です。そのためには、まだ弊法人が気づけていない子ども達に関する問題点を抽出できる環境を整えることが第一だと考えております。それには、地域の人や地域で暮らす子ども達、子育て世代との交流を大切に、地域に出向き、信頼関係を構築していく中で、地域で気づける、「地域子育て見守りネットワーク」の強化が必要不可欠だと考えており、それを実施しているのが今回採択された事業です。本事業によって、さまざまな背景を持つ子どもたちが通ってくれるようになりました。利用児童の増加をさらに目指し、少しでも多くの子ども達と出会いたいと思っています。



◆これからの取り組み

2022年度はコロナ禍ということもあり、地域ニーズの把握をつかむ1年間でした。2023年度はさらに活動の幅を広げ、現在は学生ボランティア中心で運営していますが、地域にお住まいのシニア世代の皆様や地域商店会の皆様にもお力を貸していただきながら、事業を活性化していけたらと考えています。また、地域の小学校・中学校とも連携を図り、より地域における子ども見守りネットワークの構築活動を推進していきます。さらに、地域包括支援センターとも協働し、地域共生社会への推進に貢献してまいります。

Xmas イベントでは
手作りケーキを作りました！



団体名 特定非営利活動法人 YUME プラス (ゆめびらす)

会員数 21名
(38名)

設立 法人設立 令和元年(2019)
創設 昭和60年(1985)

団体の活動目的 活動実績

「子ども達が孤立することなく、地域への参加と協力によって、親世代、地域の人々との交流を深め、将来の夢を見出し、その実現を支援する。そして子ども達の健全な育成を図り、全世代間交流と福祉の実現に寄与することを目的とする。」

空手道教室の運営・福祉相談窓口の運営・SNS相談の運営など行っている。

商店街通りを活用した子どもの遊び場づくり

事業名 StreetCamping 事業

助成額 29万円

◆地域での課題

- ・子どもが自由に安心して遊べる公園以外の屋外空間づくりを通して、子ども達の社会性や運動能力の向上、地域住民が安心して子育てができる環境の整備を図る。
- ・場となる商店街とイベント開催を希望する企業や地域団体とのマッチング促進を図る。

◆基金事業概要と達成した成果

(事業概要)

商店街通りを活用した遊び場の設置
 遊び場に必要の備品、消耗品の購入
 遊び場を運営する地域主体の調整、遊び場の運営
 各遊び場のはねびょん健康ポイントのスタンプス
 ボット設定、当該ポイントの周知チラシの配布
 専用サイトの構築、SNS 等での告知活動

(令和5年1月25日時点の成果)

- ・開催実績：7 商店街、15 回
- ・来場者総計：4,840 人
- ・健康ポイントのチラシ配布枚数 150 枚

◆これからの取り組み

来期からは助成金を活用せず自走体制への移行となるが、商店街の1開催あたりの運営コストは平均して4千円程度なので無理なく継続することが可能と考えている。

今後の活動予定は以下の通り。

開催拠点の増設(目標:区内10拠点)

専用サイト等を通して商店街と企業・団体とのマッチング、streetcamping 開催の開催支援



・streetcamping の実施風景 (通りに人工芝を設置)



・専用サイトを開設して情報発信、マッチング促進

団体名	大田区商店街連合会		
会員数	約 7,000	設立	昭和 26 年 (1951)
団体の活動目的 活動実績	区内の約 140 商店街の活性化に資する運営支援、対外向けの商店街情報配信、各種キャンペーンの企画運営、産業経済部を中心とした委託業務の推進等を行う。区内を面展開している商店街をフィールドにして、商店街に親和性のある商・観光振興、福祉や健康増進等の多岐にわたる事業を展開している。		



地域力応援基金への ご寄付のお願い



様々な地域の課題解決のために活かされています！



地域力応援基金は、区民や事業者の皆様からの寄付金を積立て、区内で活動するボランティア団体やNPO、地縁団体等が実施する公益的な事業を支える基金です。

1 寄付金の活用

地域力応援基金へのご寄付は、「地域力応援基金助成事業」として大田区の財産となるべき地域力の発掘・活性化をすすめるために活用させていただいております。基金を活用して実施した事業は区ホームページで公開しております。是非ご覧ください。

2 寄付の方法 (寄付される場合には以下の3つの方法があります)

(1) 納付書によりお近くの金融機関で振り込む

▶ 寄付申込書を下記送付先まで送付してください。後日納付書をお送りしますので金融機関窓口でお振込みください。なお、手数料はかかりません。

(2) 現金書留で郵送する

▶ 寄付申込書を同封の上、下記送付先まで送付してください。郵送料等は恐縮ですが、お客様でご負担ください。

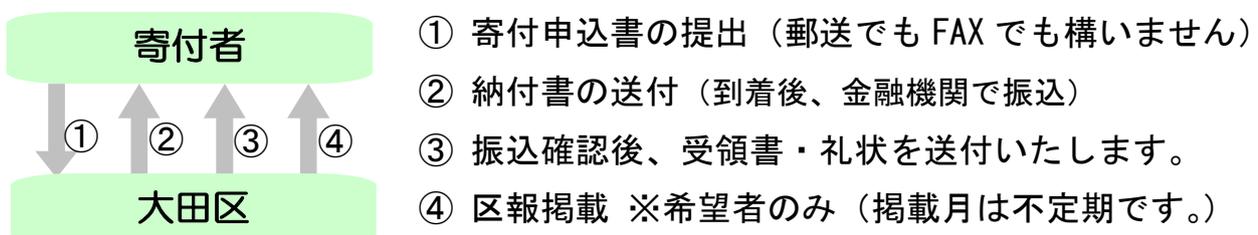
(3) 直接現金をお持ちいただく

▶ 大田区役所6階地域力推進課にお越しください。寄付申込書はその場でご記入いただきます。

3 寄付申込書の入手方法

寄付をされる場合には寄付申込書が必要です。寄付申込書が必要な方は、大田区HPからプリントアウトするか、下記問合せ先までご連絡ください。後日郵送でお送りします。

4 寄付の流れ (※上記2寄付の方法(1)の例)





令和4年度 地域力応援基金助成事業活動報告書

発行年月:令和5年 11 月

発行:大田区地域力推進部地域力推進課

区民協働・生涯学習担当

〒144-8621 大田区蒲田五丁目 13 番 14 号

TEL:03-5744-1204 FAX:03-5744-1518